

『一万年の旅路』 正誤表

本書において、一部の訳文が抜けていました。お詫びして訂正いたします。
469ページ2行目の後に、次の一節が入ります。

こうして、一つかみのトウモロコシ以上のものが得られた。

〈西の扉の守り手〉たちは招かれ 彼らの〈身内の民〉の隣に心地よく座った。彼らは敬意をもって遇され、彼らもまた敬意をもって他の民に応じた。やがて〈西の扉〉からの使節団は、外見や物腰の違いにかかわらず、三年ごとの集会の常連となったのだ。

そして時とともに、さらに新しい可能性が開けた。

このように〈西の扉〉が安んぜられたことで、この扉をはさむ双方の国は、みるみる栄えていった。ところが、それぞれの東に接する国々は、暮らしやすさも満足も、この二つの国には及ばなかった。

そしてここから、一つの教訓が生まれた。三年ごとの集いのたびに、〈われらが身内の民〉の方針に対する評価が高まり、学ぶ民こそ栄えることを多くの人たちが理解するようになっていったのである。